

2026春の行動・シール投票対話用シート

○3月8日は国際女性デー！

毎年、各国の男女平等度を数値化したジェンダーギャップ指数にもとづく世界ランキングが発表されています。最新の評価で、世界148カ国中、日本は次のうちのどれだったと思いますか？(3つのうちから選んでもらう)

⇒ こたえは118位！ ちなみに…9位はドイツ 49位はジンバブエ。

★1位はアイスランド アイスランドでは、1975年にすべての女性の90%が仕事も家事も一斉に「休む」という行動をおこしました。日本の私たちも、自分なりの行動をおこしませんか？(「女性の休日」の映画のお知らせや、国際女性デーイベントのお知らせ、署名などなど…もちろん、新婦人の入会も！すすめてみましょう)

○日本の女性の地位向上にむけ、高市首相に実現してほしいことは、このなかでありますか？(いくつでもシールを貼ってOK！署名などとあわせて対話しましょう)

女性の賃金アップ

- *日本では、女性労働者の約半数が低賃金で不安定な非正規雇用のため、男女賃金格差は是正されていません。
- *とりわけ、女性の多いケア労働者の賃金は全ての産業と比べ、月11万円も低くなっています。
- *非正規も含む平均給与を40年で計算すると、生涯賃金では、なんと男性と女性では1億円近い格差にもなるんですよ！！

仕事と育児・介護の両立

- *仕事と育児や介護の両立は、なかなか困難ですね。その大きな原因が、男女ともに大きな問題となっている長時間労働です。
- *出産を前後して半数の女性が退職に追い込まれ、子どもの不登校や介護を理由に離職する人も後を絶ちません。
- *ヨーロッパの国々に比べて、日本の労働時間は年間300時間も長いんです。高市首相は、さらに労働時間の規制緩和をおこなおうとしています。

選択的夫婦別姓制度を

- *世論調査では、約7割が選択的夫婦別姓制度に賛成していますが、高市政権は選択的夫婦別姓ではなく、旧姓の通称使用の法制化をしようとしています。あくまでも、どちらかが戸籍を変更しなくてはいけない、法律による夫婦同姓の強制を続けようとしています。
- *通称使用の法制化には、数百、数千の法律やルールを変更する膨大な手続きが必要で、「行政や企業が対応できるシステムの改修、膨大な金銭的負担、社会的コストがかかる」など問題が指摘されています。
- *「それぞれの名前で生きていきたい」というカップルも、「一つの姓で生きていこう」というカップルも結婚できる法改正を—これは一人ひとりの生き方、多様な家族のあり方を認めあう社会への一歩です。同姓も別姓も選べる制度こそ！

国会議員に女性を

- *日本の女性議員(衆議院)の割合は、世界で見ると190カ国中、165位。2月におこなわれた総選挙で当選した議員のうち、女性の比率は14.6%。女性初の高市首相が率いる自民党の国会議員候補者の女性比率は、たった1割にとどまっています。